

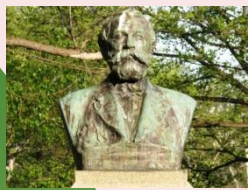
大学と学問、社会との関わり

日時: 2014年5月30日(金) 18:30~20:30

会場: 北海道大学農学部 本館1F N11講義室

入場無料

(新入[院]生以外の方も参加できます)



【講演会】

- 18:30 開会挨拶
18:35-19:05 「新渡戸稲造から学ぶ大学と学問の使命」
三島徳三 先生(北海道大学名誉教授・日本科学者会議参与)
19:05-19:15 「質疑応答」
19:15-19:45 「大学の社会的役割を考えるー大学の危機の時代に」
姉崎洋一 先生(北海道大学大学院教育学研究院 特任教授)
19:45-19:55 「質疑応答」
19:55-20:20 総合討論
20:20 閉会挨拶

※講演会終了後、講師の先生方を囲んで懇親会を予定

【趣旨説明】

3.11の震災以降、原発問題に関係した様々の立場にある専門家の発言や、直近では「STAP細胞」を巡る一連の騒動にも見られるように、専門家集団としての科学者、あるいは科学技術の営為そのもののあり方が、一般社会から鋭く問われている。

北大で開催される日本科学者会議の新歓企画として、今年度は「大学と学問、社会とのかかわり」をテーマとして執り行なう。前半では北大が初期に輩出した新渡戸稲造を取り上げ、新渡戸あるいは北大が社会的に果たそうとしてきた理念や、実際に果たしてきた歴史・役割を振り返りながら、学問のあり方、学問を修めた専門家としてのあり方を考察する。

また、後半では特に最近の大学や公的研究機関を取り巻く状況(法人化、成果主義、外部資金獲得の奨励など)や地域社会とのかかわり、最近取りだたされている科学を巡る諸問題等を題材として、大学が求められている社会的役割について考えるきっかけとなる場を提供したい。

連絡先:

日本科学者会議北海道支部事務局:jsa-hokkaido@mc6.sings.jp